

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 10月 4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470500780		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム あすらや荘		
所在地	〒737-0161 広島県呉市郷原町2380番地 (電話) 0823-77-0949		
自己評価作成日	平成29年8月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470500780-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年9月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入所前より利用者・家族と親密に連絡をとり、入所後に快適な生活が送れるよう努めている。入所後は、あすらや荘の理念である「心よるところ、みなここにあり」と思って頂けるよう、質の高いサービスの提供と外出行事やボランティアの受け入れを通して季節を感じ、地域や行政・家族との接点を持ち開かれたサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「利用者も職員も安心して、気持ちよく、幸せになる、人気の施設」を合言葉としての理念を作成し、ホームの目指すべき運営方針が明確に示され職員が取り組める体制がある。同施設法人のスケールメリットを生かした法人内の研修体制の充実やサポート体制で職員個々のスキルアップも図りやすく、災害・避難対策をはじめ施設の整備等安心できる体制もあり「可能な限り歩けること」の思いを持ち日々の介護の実践と職員同士が話しやすく思いが伝えやすい職場の雰囲気があり、何事も利用者と職員が一緒に話し合いを重ね、利用者の意向や個人の尊重を重視した一人ひとりに寄り添う支援が行われている。近隣の保育園、小学校等との交流や法人の夏祭りの開催、地域住民やボランティアの受け入れも多数あり地域との繋がりを大切にしている取り組みがある。外出行事や季節のものや菜園で収穫した野菜を使用しての毎月の料理教室も利用者の楽しみや役割づくりになっており生き生きとした取り組みを実践している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営 GH①						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	運営方針を定め、理念を共有している。	法人の理念として理事長の思いをまとめた「あゆみの心」が指針として全職員に配布され各個人で確認されている。それを基に合言葉として「利用者も職員も気持ちよく幸せになれる人気の施設」を事業所全体での理念として作成し、毎日の朝礼で唱和し実践している。法人でも理念のフォロー研修をリーダー対象に実施し今後中堅職員も対象に実施が計画されている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	夏祭り等の行事を通して地域と交流できるよう努めている。また、中学校の職場体験やボランティア等の受け入れを積極的に行い、積極的に地域と交流している。	団地の高台に立地し外に出かけるのが難しいため、利用者の友人等地域の方の訪問が多くある。法人の夏祭りの開催、園児との交流や案内をもらって小学校の運動会の見学等地域との継続した交流がある。実習生の受け入れを積極的行なうことや職員が全員地元の方ということもあり地域の情報も得やすく繋がりが作られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学や実習等の希望を積極的に受け入れ、理解していただけるよう努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	近況報告や行事の報告、意見交換を行い、サービス向上に努めている。	会議では自治会長や民生委員、地域包括支援センター、家族代表も複数参加がありグループホームからも3、4名現場スタッフが参加し、事業所の取組み状況が報告され意見交換をしている。家族からの希望がきっかけで、外出になかなか行きにくい方に対し少人数で行って行くよう実現に取り組んだ例がある。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加してもらい、協力関係の構築に努めている。	市の担当者とは普段より日々の業務のことで連絡をとっており、運営推進会議にも地域包括支援センター職員の参加にて意見交換を行っており、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修等があれば積極的に参加を促し、職員間で情報を共有している。また、利用者がそれぞれマイペースで自由に過ごせるよう、利用者主体の生活に取り組み、自立支援に努めている。</p>	<p>法人内で年2回の研修を実施しており職員も積極的に参加している。身体拘束委員会も月1回開催され身体拘束の周知に努めている。転倒のリスクがあるところの床フローリングを柔らかいクッション性のある素材に張り替えるなどのリスク管理も行われている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修等があれば積極的に参加し、職員間で情報を共有し、身体的な虐待だけでなく言葉の虐待にも注意を払っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>活用できているが、学ぶ機会が少ないため、積極的に講習会等に参加できるよう環境づくりに努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時に重要事項説明書を渡し、説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情処理委員会を設置し、対応している。また、面会時に日常生活の状況を説明し、希望に沿った支援を行えるよう努めている。</p>	<p>料理レクで作りたい物・お寿司等好きなものを聞いて作ったり、買い物では美容液を買ったり等、利用者の意見は日々の関わりからその都度確認しておりプランにも反映できるようにしている。家族にも案内に家族の意向記入覧を設け返信してもらったり、年1回、家族会の実施で意見交換を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に会議を開催している。	月1回職員会議を実施している。職員の要望は朝夕のミーティングや、普段から日々の業務やコーヒーを飲む時間等を活用して話す時間を設けたり、話しやすい言いやすい環境作りを意識している。職員は年間（上期、下期）個人で目標を作り主任と面談し共有して取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1年間を上期・下期に分け、各自で個人目標を設定し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時研修の案内を配布し、参加を呼びかけている。法人内でも研修計画を作成し、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人内の施設と勉強会を行い、他の事業所と情報交換や交流をするよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面接を行い、本人と話す機会を作り「生活歴・本人のこだわり」を大切にサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	サービス利用前に面接を行い、家族と話す機会を作っている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	サービス利用前の面接で家族や本人の状況を把握し、意向の確認を行っている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	行事や日々の生活を通じて、一緒に過ごす時間を大切にし、関係を築けるよう努めている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	面会時には本人の近況報告や家族の意向等を話す機会を設け、関係の構築に努めている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	家族の面会時に外出等の提案をしている。	家族の協力を得ながら、墓参りに行きたい等したいことや馴染みの美容院へ通ったり、月に1度は自宅に帰ることや外泊をされる方もいる。近所の方が訪れることもあり、入所時に話をしっかり聞いて馴染みの関係づくりに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	職員も会話に参加し、利用者同士の関係の構築を促すよう努めている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	同じ敷地内の特養や老健と連携して入退所を行っており、本人・家族の経過のフォローも行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	強制することなく、一人ひとりの意向に沿った暮らしができるよう自己決定の尊重に努めている。	食事の時間も個人の様子やその日の状況に合わせてらしたりする等強制することなく可能な限り利用者個人に合わせる幅を持たせた対応がある。利用者其々に担当の職員を決め、計画も利用者とも話をしながら担当職員の意見も交え計画し個人の思いを尊重できるよう取り組んでいる。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	サービス利用前の面接で、家族に聞き取り、記録を行っている。入所後も家族の面会時に聞き取りを行っている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	毎日個人記録にてその日の様子や特変、心身状態を記録を行い、3ヶ月ごとにアセスメントを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	カンファレンス会議を行い、介護計画を作成している。	担当職員が本人の意向や状態をより細やかに計画作成者につなげそれを基に、カンファレンス会議にて全員で確認し作成している。家族からも面会時や電話連絡にて意向や思いをしっかりと確認し計画に反映できるようにしている。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	毎日個人記録を作成し、連絡ノートにて職員間で情報の共有をしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	個々の状況に合わせてサービスが提供できるよう努めている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	実施できている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	かかりつけ医と連携を図りながら支援している。	入所時にかかりつけ医の聞き取りを行っている。往診体制や緊急時の対応を踏まえ敷地内の診療所をかかりつけ医とする希望が多くある。朝の申し送りに診療所看護師が参加しDrに報告する、必要時には歯科・眼科等受診することもできる等安心して医療を受けられる体制がある。家族との協力にてこれまでのかかりつけ医も継続することもできる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>特養診療所の看護師と連携を図りながら支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>積極的に取り組んでいる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>同敷地内の特養・老健との連携を図っている為、終末期ケアの対応は実施していないが、重度化が見込まれる場合は家族や医療機関との話し合いを行い、方針を共有し、適切な支援が行えるよう努めている。</p>	<p>看取りは基本実施しておらず、入所時にその旨を説明している。同敷地法人内に特別養護老人ホームや老健施設があり、状態の低下や重度化が見込まれる際は家族、医療機関と話し合い転所する等連携して適切な支援に繋げている。今後、看取りの研修の実施等取り組みに向け少しずつ検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内で研修を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域との協力体制は薄いですが、災害時の対応について全職員が身につけられるよう取り組んでいる。</p>	<p>法人施設内に備蓄や発電機等も用意ができており、敷地内の事業所同士の協力応援体制、災害マニュアルも確立されており、職員研修や避難・誘導訓練も定期的実施されている。法人施設は市からも避難場所としての指定を受けて地域との協働できる体制が作られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「不快感・不安感」を与えないような話しかけが実施できている。	お風呂での待ち合わせの時はプライバシーが守れるよう配慮することやトイレのノック等基本的なことを意識し取り組み、職員間で言葉づかいが乱れてきたら注意し合える関係がある。個人の思いを個別にしっかり時間を作って聞くことを実施しており理念が生かされた取り組みがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	分かりやすい説明・声掛けを行うことで、強制せず、本人の希望や意見を聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	見守り・体調変化の確認に留意し、日課行事の参加は本人の希望を聞く等、一人ひとりのペースを大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族や本人の希望を取り入れ、補整手直しに努め、本人の意思を尊重するよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	決められた食事を提供しているが、苦手なものには代替品を用意する等の対応をしている。毎月料理教室等を実施する事で楽しい雰囲気の中で調理・食事を行っている。	季節のものや菜園で収穫された野菜を毎月の料理教室で活用し、できることの役割分担をして利用者と職員が共同で楽しい雰囲気の中で調理・食事を行っている。定期的に嗜好調査も行っている。その都度の利用者の意見もあげるようにしており、食べたい物は個別に対応したりと利用者の楽しむことができる食事づくりができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の好みを把握し、身体状況に応じてトロミ使用、冷温とそれぞれ個別提供に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、荘内歯科受診を定期的実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>立位可能な利用者は必ずトイレで排泄が出来るよう声掛け・誘導を行っている。</p>	<p>トイレに座ることを基本とし、夜間でも可能な限りなるべく歩いてもらうことを考えてのトイレの誘導を行っている。普段の歩行状態から注意して観察し、状態・状況によって早めにシルバーカーを使用して歩いてトイレに行けるように支援したりと個別の状態を細部に観察した取り組みがなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>緩下剤服用もあるが、冷たい牛乳の提供や運動をすることで排便コントロールしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日は決まっているが、本人の希望や体調により臨機応変に対応し、週2回の入浴実施を提供している。</p>	<p>週2回の入浴とし、本人の体調や意向にそって無理強いせず行い、身体状態の変化で一般浴槽に入浴が難しい方でも足浴・シャワー浴を実施する等臨機応変な対応がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>自室で休んだり、ホールで対話 をしたり、それぞれマイペース で過ごしてもらい、安全・安心 な生活が提供できるよう努めて いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬処方時に目的や服薬時間を確 認し、誤薬防止のために指示さ れた事を個別に経過報告する と同時に生活記録に記録してい る。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>本人の身体状況を見極め、趣味 や特技を活かして出来ることを 無理のないよう行うことで満 足感や喜びを味わってもらっ ている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。</p>	<p>荘外行事を実施し、参加してもら うことで活性化を図り、QOL 向上に努めている。</p>	<p>月1回、外食会やショッピング で外出できる機会を定期的に 設け実施している。家族の協 力を得ながら個人的にも多く 外出の機会が持てるようにし ている。重度の方でも少し でも外へ出てもらいたい思 いを持ち、食べやすい形態の ものを選び外食に繋げている。 散歩もよくして車椅子に乗 って風にあたりたりと日々穏 やかに過ごせる取り組みがあ る。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>利用者の状況によって自己管 理をしたり、自己管理が困難 な利用者には施設の立替金で 対応している。また、ショッ ピング等の外出時には本人の 希望する品物が購入できる ようサポートしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	手紙やハガキの宛名書や文章等の相談を受けることがある。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	生活感や季節感を五感で味わってもらえるよう、雰囲気作りを心がけ、導線の障害物を取り除き、安全に生活できるようトラブル回避に努めている。	居室内は自分の空間にしてもらえよう馴染みのものを持参してもらい本人らしさのある環境づくりを行い、居室入口には暖簾をして家の雰囲気を作るのと同時に視覚的にも中が見えにくいなどプライバシーにも配慮した対応がなされている。リビングも季節に応じての掲示物があり空間の雰囲気作りをしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	利用者が生活しやすいよう、家庭的な雰囲気を感じれるように努めている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入所時や面会時に本人や家族からの希望があれば、以前から使用していたものや好みのものを持参してもらおう等している。	施設でのベッドとタンスは用意されているが、安心して過ごせる場所となるように仏壇や裁縫道具、大正琴など個人の馴染みのものや好みのものを持参してもらっている。大正琴では職員が利用者に教えてもらい習う形で馴染みのものを活用して利用者の楽しみに繋がる配慮をされている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	利用者主体と考え、出来ることを無理のないよう提供し、自立した生活の支援に努めている。		

V アウトカム項目 GH①			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあすらや荘

作成日 平成29年10月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	ホールでトラブルが多いため、落ち着いた生活が送れる空間作りが必要。	皆が笑顔で過ごせる空間作り。	ホール内の配置を変更し利用者個人個人が穏やかに過ごしていただけるよう環境を整える。	12ヵ月
2	33	看取りケアに対する知識等が不足している。	看取りケアがスムーズに行えるよう研修を行い準備をする。	月に1度高齢者に多い疾患について勉強会を開く。	12ヵ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。